

わくわく倶楽部 祇園祭研究会活動報告 (16) (20.10.7)

日時：令和2年10月7日(水) 13:30~15:00

場所：ひと・まち交流館 3階 第3会議室

参加者：17名

祇園祭と聞いて、ほとんどの方が山鉦巡行を思い浮かばれるのではないのでしょうか。その中でも長刀鉦のお稚児さんによる注連縄切は見せ場のひとつといえるでしょう。この注連縄切は、高橋町斎竹奉賛会の方のご奉仕によって成り立っています。

本日は、高橋町斎竹奉賛会会長 八田伊知夫様、そして 吉岡宗隆様*1、山口仁様*2をお招きして、斎竹建てや注連縄についてのお話をいただきました。

- *1 吉岡宗隆様 現在の会長の八田様が今年限りで引退なされ、吉岡様が次期会長になられます。
- *2 山口仁様 ホテル日航プリンセス京都 宴会部営業課課長
八坂神社から授かった注連縄は、巡行当日までホテル日航プリンセス京都にお祀りされます。
山口様にはパソコンの操作をいただきました。

まず八田様より、斎竹建ての歴史についてのお話をいただきました。

現在の四条通麩屋町でのお稚児さんによる注連縄切は、前祭の巡行のコースが寺町通北上から河原町通北上に変わった昭和36年から始められ、この行事を編み出したのは長刀鉦の方だった様です。その時に、長刀鉦から高橋町にご奉仕をお願いされたそうです。しかし、詳しい経緯については高橋町にも長刀鉦にも資料や写真が残っておらずよく判っていません。

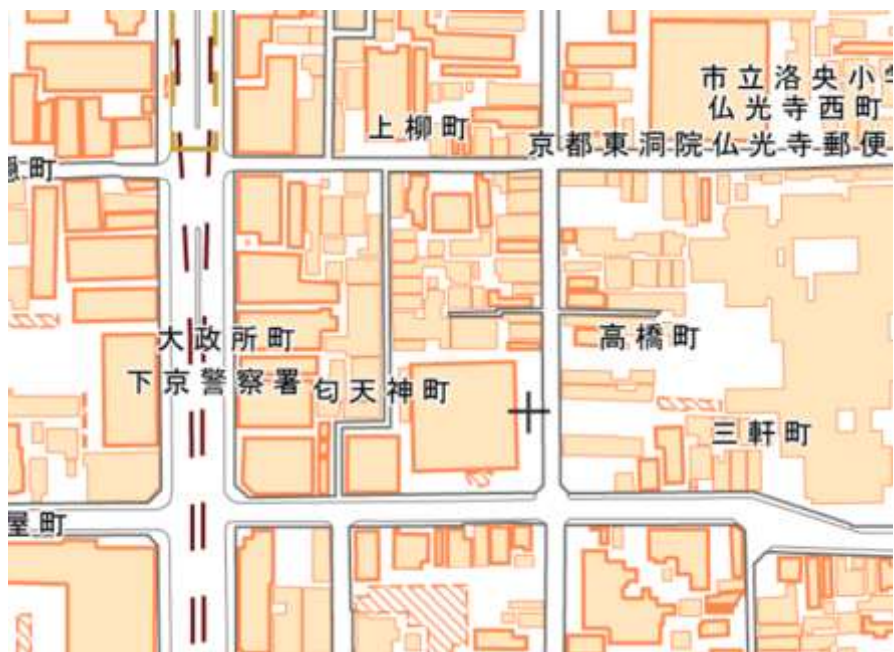
高橋町では、それまでもずっと四条通に面した麩屋町通南北の角に斎竹を建てておられます。ただ昭和36年までは、この場所での注連縄切がなかったということです。

高橋町と斎竹建てとの関係は、秀吉が現在の場所に御旅所を移す前の大政所御旅所の頃から始まっているのです。高橋町が大政所御旅所の敷地にあったことから、御旅所の穢れを祓うために斎竹を建ててご奉仕を始められ、当初は同じ敷地内の大政所町や上柳町と共にご奉仕されていたのですが、現在は高橋町のみになってしまったそうです。大政所町には、もう住人はおられないみたいです。

現在の斎竹建てと注連縄張は、高橋町50軒のうちの有志7名によって結成される

「高橋町斎竹奉賛会」のご奉仕によるものです

会の方たちは、「いみたけ」と呼ばず「ごさいちく」と呼んでおられます。



次に吉岡様より、7月10日八坂神社への社参に始まり7月24日早朝 青竹を納めるまでの行事の行程をスライドによってわかりやすく説明をしていただきました。



15日、2本の青竹が建てられます。作業は早朝4時半頃から始め、例年終えるのが7時頃になるとお話されました。どうしても、4つの海老結びを完成させるのに時間がかかってしまうそうです。

斎竹には柵が飾られ、そこには斎竹1本につき100枚の紙垂（しで）が付けられます。その作業もこの朝に行われるのです。

その他 縄の巻き数など代々受け継いだ決まり事があって、それを守り斎竹を完成させていきます。

17日巡行当日の注連縄張では、北側の斎竹に縄を結び南側では仮止めにしてお稚児さんの切りやすい高さに調節されます。

長刀鉾が注連縄にやって来て、お稚児さんが注連縄切の所作を始め、縄が切られるまでが最も緊張される時で、うまく注連縄が切れるとやっとホットできるそうです。片付けはありますが、ここまでが高橋町斎竹奉賛会の務めとなります。

高橋町の斎竹建てのご奉仕は、大政所御旅所があった頃から引き継いでこられた長い歴史があるのです。斎竹建てを通して祇園祭を守り、未来に繋げていくという高橋町の方々の精神を、お二人のお話からひしひしと感じさせられました。